

# 学校関係者評価委員会

1. 日時 令和7年6月7日(土) 13時～14時30分
2. 場所 101教室
3. 委員 ☐島根県看護協会理事 田中真美 ☐島根県臨床工学技士会会長 錦織伸司  
☐島根県理学療法士会 石田修平 ☐出雲西高等学校校長 永島 弘明  
☐今市コミュニティーセンターセンター長 内田 祥一  
☐保護者代表 橘 厚子 ☐卒業生 代表 景山 元  
☐橋本学校長 (ZOOM 接続) ☐神田副学校長 ☐落合教務部長 ☐内井事務副部長  
☐鎌田学科長 ☐橋村学科長 ☐加藤学科長 ☐阿守学科長

(■欠席予定)

ZOOM 接続

<https://zoom.us/j/8718456538?pwd=RdmhpqalZC14F6IFcAn93vKj0h9z4u.1&omn=91058424880>

ミーティング ID: 871 845 6538、パスコード: 1111

司会進行：錦織信司 議事録：加藤智久

## 4. スケジュール

| 時 間             | 内 容                           | <場所>・準備など                                                                                                                                                                   | 担 当                     |
|-----------------|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 12時30分          | 受付                            | 玄関ホール<br>101教室へ案内                                                                                                                                                           | 中山・伊藤・荒木                |
| 13時00分<br>(15分) | 委員会<br>1) 開会                  |                                                                                                                                                                             | 進行・・・錦織伸司 様<br>書記・・・学科長 |
| 13時05分          | 2) 学校長挨拶<br>3) 委員自己紹介         |                                                                                                                                                                             | 各委員                     |
|                 | 4) 議事<br>①自己点検・事項評価<br>について説明 | 【対応責任者】<br>I 教育理念・目的；内井<br>II 学校運営；内井<br>III 教育活動；落合<br>IV 学修成果；落合<br>V 学生支援；落合<br>VI 教育環境；落合<br>(実習関連含む)<br>VII 学生募集と受入れ；内井<br>VIII 財務；内井<br>IX 法令等の遵守；内井<br>X 社会貢献地域貢献；内井 | 内井<br>落合                |
| 13時15分<br>(75分) | ②自己点検評価結果より<br>意見交換           |                                                                                                                                                                             |                         |

|           |                                 |  |  |
|-----------|---------------------------------|--|--|
| 14 時 30 分 | 6) 閉会<br>教育課程編成委員の方は<br>10 分間休憩 |  |  |
|-----------|---------------------------------|--|--|

## 議事録

### 落合

ただいまより令和 7 年度出雲医療看護専門学校関係者評価委員会を開催します。本日はご多忙の所お時間をとっていただきありがとうございます。本日司会進行をします落合です。よろしくお願いいたします。

本日は委員数 15 名の内全員出席となっておりますので学校関係者評価委員会規則第 6 条 2 の要件を満たし会議として成立していることを報告させていただきます。本日は会議内容を録音させていただきますのでご了承ください。

まず始めに学校長橋本よりご挨拶をさせていただきます。

### 橋本

昨日まで 3 日間出雲に常駐して仕事をしていましたが大阪での仕事があるためオンラインで参加させていただきます。

本日はお忙しい中、学校関係者員会にご参加いただきましたことを誠に御礼申し上げます。コロナ感染症拡大により縮小しておりましたが出雲医療看護専門学校も平常時の学校運営が始っております。

今回は 2025 年度学校関係者評価委員会を開催する運びとなりました。数多くの委員の先生方にご参加いただいたことを改めて厚く御礼申し上げます。

職業実践専門課程は 2014 年度よりスタートした文部科学省が新たに設けた学校制度となります。

出雲医療看護専門学校も職業実践専門課程が認可され今年で 7 年目を迎えております。この職業実践専門課程の状況をお話しいしたいと思います。

現在日本の専門学校は 2376 校認可されております。この職業実践専門課程で認可を受けている学校は 1123 校で 42%です。文科省が考えている 60%までまだまだ時間がかかる状況であります。設置されている学科数は 7202 学科あります。認定されている学科は 3212 学科で 44.6%と 60%には少し時間がかかる様子です。

職業実践専門課程は職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識・技能・技術における職業教育の水準の向上を図ることが目的でございます。

今大阪滋慶学園も新しい時代の変化に部分的に検討している内容もございますので本日意見がございましたら忌憚のないご意見を賜ればと思っております。

学校法人大阪滋慶学園は出雲医療看護専門学校が創立 13 年目を迎え、学園学校の教育ミッションが職業人教育を通じて社会に貢献することを掲げています。ビジョンは実学教育・人間教育・国際教育を掲げて教育活動を実践してまいりました。コロナ感染症が明け、国際教育における海外研修を今年度から少しずつ開催しているところ です。

本学園の医療・看護教育を紹介させていただきます。看護学科は卒業生数が 628 名、看護師免許取得者数が 612 名です。取得率が 97.5%、理学療法士学科は卒業生数が 261 名、理学療法士免許取得者数が 240 名、取得率が 92%でございます。臨床工学技士学科は卒業生数が 150 名、臨床工学技士免許取得者数が 148 名、取得率が 94.9%となります。島根県を中心に多くの仲間が現場で活躍し頑張っておられます。卒業生が地元に残ってくれることを多く期待し地元就職を掲げながらキャリアセンターともども一生懸命努力をしているところです。卒業生の活躍が色々な角度から伝わってきますと学校・学園は大変うれしく思います。今年も就職 100%を目指して

いきますので、委員会の先生方から意見をいただき取り組んでまいります。本日は 2024 年度の自己点検自己評価の説明がありますので委員の先生のご意見をいただきましたらうれしく思います。以上学校長の挨拶とさせていただきます。

本日まで参加いただきましたことを厚く御礼申し上げます。

落合

橋本学校長ありがとうございました。それではここから司会を委員長の錦織様にお願いしたいと思います。錦織様よろしくお願いいたします。

錦織

皆様よろしくお願いいたします。まず議事に入ります前に自己紹介をさせていただきます。

委員の自己紹介

打田→永島→橘→田中→景山→石田→神田→内井→落合→鎌田→橋村→加藤→阿守→錦織（敬称略）

錦織

それでは議事を進行してまいります。皆様にお配りしております自己点検自己評価の説明を事務局の方からしていただきそれについてご意見ご質問をよろしくお願いいたします。まずは内井事務部長より学校理念、学校運営について説明をしていただきます。

内井

まず 1 の教育理念ですが昨年度の評価は左から 2 列目に入れさせていただいております。1-1-2 の専門分野に関連する業界等の人材に適応しているかが昨年 3 ですが今年度 4 にしてそれ以外は昨年同様という形にさせていただきます。

本校開講して 13 年目を迎えることになりました。ミッションは職業人教育を通じて社会に貢献することに基づいて見学の理念があり、運営方針、教育目標を明確にしており、教職員はもちろん定着しており学生に対しても浸透しているのではと考えております。

評価を上げた 1-1-2 ですが実践的な教育が学校関係者評価委員会の先生方や教育課程編成委員会の先生方、実習指導者の先生方、実習でお世話になっている業界等のご意見も取り入れて、連携した教育活動を実践し、教育システムが構築できているのではないかと考えて 4 とさせていただきました。

1-1-3 と 1-1-4 に関して全体的に学生の人数に対して柔軟な対応をして教育の質は向上をしておと思っていますが、教育効果としてオンラインやハイブリットの活用をどのようにしていこうかと考えております。海外研修も本校の教育理念の一つではありますが、海外研修をどのようにしていくか、電子教科書等の ICT の向上、そして地域からの信頼を上げていくために地域との連携を行うプロジェクトを立ち上げるなどまだまだできることがあるのではと考えいろいろな取り組みをしているのですが昨年と同様の 3 とさせていただきました。今後もより具体的な教育活動を行い、教育の質の向上をして行ければと考えております。

次の学校運営は昨年から比べると 2-4-2 の評価を上げさせていただいております。

ミッションに基づいて建学の理念の実学教育、人間教育、国際教育を行うために 4 つの信頼を大切にしております。「学生保護者様からの信頼、高等学校からの信頼、業界からの信頼、そして地域からの信頼」の 4 つですが、学生ひとり一人を大切にしてみていくことを教職員で大切にしております。それにあたり 5 つの数字があり、入学者数、退学率、就職内定率、学費未納率、国家試験合格率を大切に理事会、学校責任者の会議等で適切に運営状況を確認し、その情報が学校責任者の会議や学校全体の会議等で伝達するしくみができているのではないかと考え 4 とさせていただいております。

情報システムの業務効率化が 3 となっておりますが、学園として AS400 のシステムが運用されております。そのシステムをどのように活用していくか、学園として DX の取り組みが始まってきております。最初に広報、入学者の DX から始まり教育 DX に着手しているところです。どのように運用していくかを検討するというところで 3 とさせていただきました。

錦織

ありがとうございました。続いて落合教務部長から教育活動、教育成果、教育環境について説明していただきます。

落合

大項目3の教育活動について説明させていただきます。教育システムの体系化、継続的な体系化は学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会、実習指導者会議などニーズに合わせて今年で開校13年目となるため構築出来てきているのではと考えております。キャリア支援では、キャリアデザイン出前講座など支援体制が整備されてきております。

国家試験取得支援についても学園では国家試験対策センターと各学科の国家試験対策委員会が連携をして教育内容を確認しながら効果的な取り組みが進められております。

学力に課題のある学生については学園が実施しております学習能力チェックプログラムの活用、学内における学習サポートセンターの支援体制を整備しており、早期からの対応が可能となります。

教員の資質向上については学園内の研修プログラムや学内の教員研修で継続的なスキルアップを図っております。これらの取り組みを総合的に評価して4とさせていただきます。

3-9-4については昨年度同様3と評価しております。授業評価ですが非常勤講師へのフィードバックが希望者のみとなっておりますので、今後必要な改善策を考えております。

3-11-2についても昨年と同様に3としております。学生に対する指導構築が必要ではないかと考えております。これらの対策が講じられれば教育の質の向上が上げられると考えておりますが、再構築が必要ではないかと考えて3としております。

4の学習成果の方で就職についてはキャリアセンターと担当教員の連携で100%を達成しております。十分な支援体制ができていると思います。

4-14-1と4-15-1は3の評価のままとしております。国家試験合格を100%と掲げておりますが、昨年度は達成できておりません。低学力者の教育支援が今後の課題としております。毎年学生の能力や環境が全く違うため去年の対策で今年同じ対策を行っても合格に導くことはできません。その都度の対策が必要となり難しい状況ではあります。

卒業生の社会的評価ですが、就職先へのアンケートや同窓会を通じて現状を把握しておりますが研究業績など十分な把握ができておりません。今後同窓会や研修会を通じて活動のフォローアップができればと考えております。

次に大項目5の学生支援ですが学校全体としては学生が安心して学業に専念できるなどを4としております。特に個別面談、キャリアデザイン講座、メンタル支援、同窓会支援、経済的支援は一定の効果が得られております。

5-17-1、5-19-3、5-20-1、5-21-1、5-21-2、5-21-3については課題があり、退学率の低減、要因の把握は進んでいるが対策が不十分であり、国家試験対策と同じで毎年学生は違うため個別な対応が必要となっております。具体的な対策が毎年違うため不十分になっている部分もあります。保護者様との連携や教職員の研修を通じて退学者提言を目指していきたいと考えております。

住居支援については県外の学生も増えてきておりますので供給が不足しております。学生専用アパートを持っておりますが、それ以上の希望者が出てきているため不十分ではないかと考えます。

保護者様との連携は情報提供の強化が求められており、電話で連絡を取ったり、直接面談に来てもらっていますが、効果的な情報発信の手段が課題となっております。

卒後支援についてはリカレント教育の支援が課題となっております。法人としては滋慶医療科学大学の設置など環境を整えております。身近なリカレント教育の提供は模索中であり、各学科の分科会の卒後勉強会などを勧めていきたいと考えております。

学びを継続できる環境は学費の支援が必要となり、特に専門実践教育給付金の全学科対応が今後の課題と考えております。それらを踏まえて昨年度と同じ点数となっております。

大項目 6 の教育環境についてですが、昨年度と同じ評価にしております。安全な施設管理は行っておりますが緊急性のある設備対応や実習環境の整備、海外研修の異文化交流については課題もあり、昨年と同様にしております。

安全訓練は避難経路の確認を中心に火災と地震を考慮しながら行っております。震災マニュアルの作成をしておりますが、地域の避難所指定もあることから危機管理安全経路確認などをまだまだ検討していかなければなりません。避難訓練は学校だけではなく地域の皆様と一緒に取り組める環境が必要と考えております。以上となります。

錦織

続きまして学生募集、受け入れ等と財務、法令順守についてお願いします。

内井

大項目 7 の学生募集と受け入れで 5 つの数字の中の入学者数ですが評価については昨年と全て同様としております。

全体的に説明させていただきますと 7-25-1 で情報提供については高校訪問や高等学校の説明会、地域の説明、ガイダンスの実施をしております。専門学校ですので入学してから思っていたのと違うと思われないように仕事内容を明確化できるように説明をしております。定期的に行っておりますがまだまだできることがあるということの評価は 3 としております。

7-25-2 の学生募集活動は適性かつ効果的に行っているかでは、昨年は学校関係者評価委員会の先生方に 3 でもよいのではというご意見をいただきましたが、昨年度募集も大変苦しかったため 2 としております。

入学の基準や学納金、入学辞退はしっかりと募集要項にもうたっておりますので昨年同様 4 としております。私立学校ですので広報募集活動を先生方と協力をしながら色々取り組みをしておりますが、少子化や大学進学希望層、県外への進学を希望する方もいるため、まだまだやるべきこと、検討事項が多いと思っております。

出雲医療看護専門学校ができた趣旨は地元の学生が地元で学び地域の医療機関で活躍してもらうことです。そのような情報を高校の先生方や地域の方へ情報発信をして入試を行っていきたいと思っております。一昨年に大学入試の早期化があり入試がさらに早くなっている中、専門学校としても入学生の人柄を見る AO 入試の運用や入学が確定してからの入学後の対策などの取り組み 1 つ 1 つが繋がれば、募集活動も活発になってくるのではないかと考えております。

募集活動については以上となります。

続きまして 8 の財務ですが、法人としては大阪滋慶学園全体として財務基盤は問題ないと考えております。学校の事業計画や収支計画をみて、どのように教育を進めていくかとなりますが、当初の計画とずれがないかを定期的に確認を進めております。今年度も計画はしておりますが学生募集で収入が決まるため、学生募集や退学者で当初の予算が変わってきております。支出をどのように抑えていくかを検討しなければなりません、出ていくものは仕方ないと考えております。どのように支出を減らしていくかは検討しなければなりません。学生募集が成功しなければ収入が悪化していきます。今年度は学生募集の達成と退学者を少しでも減らしていき収入を安定させることで学校運営としてよい流れを作っていきたいと考えております。財務は以上となります。

続いて大項目 9 の法令順守ですが評価は全て 4 としております。学園として法令順守は最重要項目であるため率先して取り組んでおります。国家試験系の学科が 3 学科あるためそれぞれの指定規則に準じて行っております。

学校としても個人情報もしっかりと守っていかなければなりませんし、学園としても情報セキュリティポリシーを定めて順守しております。

色々な視点で券を頂き信頼できる情報を発信していけることが大事と考えますので学校の情報開示を行って

いきたいと思っております。法令順守は以上となります。

錦織

最後に社会貢献・地域貢献についてよろしくお願いいたします。

落合

大項目 10 の社会貢献・地域貢献についてです。地域のボランティア活動についてはおおむね従来通り行えていると考えておりまして、昨年度の評価は 3 でしたが、今年度の評価を 4 としております。学生のボランティア活動も積極的に参加しております。出雲市の地域のボランティアや警察署、保健所等からのいろんなボランティアの参加も来ておりましてそれらを積極的に学生が参加できるような支援をしておりますので評価を 3 から 4 を当てさせていただきました。

10-36-2 の国際交流について昨年度同様海外研修ができておらずオンラインでの現地との対応となります。異文化交流は出雲にいらがらでも多国籍の方と交流を増やしていくことが検討事項となりますので昨年同様として評価を 3 としております。

錦織

ありがとうございました。それでは委員の皆様からのご意見やご質問をいただきたいと思います。

永島

退学者について県外から来ている学生さんやアパートで通っている学生さん、県内で自宅から通っている学生さんの割合や傾向はありますか。

内井

今県外からの入学生は 10% くらいで 1 人暮らしをしている学生はどうしても島根県西部地域は必要となりますため 3 割くらいおります。

落合

地域によって退学に結びつくことはありませんが、精神面など病気が理由で退学する学生は出てきております。最近ではメンタル面での退学は多いです。メンタル面での支援は色々な形でしておりますがなかなか防ぐのが難しいです。

永島

中学高校のときに不登校傾向の学生さんが入学してきて少し経ったらしんどくなってきて退学になるという感じですか。

落合

それもあると思いますが一概に言えません。本校に入学して頑張られる学生もおります。不登校で通信制の高校へ通っている学生も入学し、学年トップで卒業することもあるため一概には言えません。それも踏まえて入学前から友達作りや居場所づくりのためにプレカレッジを行っていますが、不登校であった学生が退学になる可能性は高いかもしれません。

永島

それと関連しますが、メンタリング強化に取り組まれておられますが資格を持った方が行っているのか、ここにおられる職員の方が行っているのかはどうでしょうか。

落合

滋慶学園の中でもメンタリングに関する研修があるため教員は研修を受けております。それ以外でも外部からカウンセリングの先生が月 2 回きておりますのでその先生にカウンセリングをしてもらい、情報共有を行っております。

錦織

その他いかがでしょうか。

打田

地域の方にボランティアに来ていただきコミュニセンタ―にも来てもらって助かっているのですが、だいたい年間で1人の学生がどのくらいボランティアをしているのでしょうか。

落合

データを出していないが1人1回出ているというよりも同じ学生が複数ボランティアに参加しているという形です。

打田

地域の課題解決に協力をするためにカリキュラムに入れているとかプロジェクトを立ち上げていると書いてありますが具体的にどのようなプロジェクトでしょうか。

内井

今後の課題として書かせてもらっております。プロジェクト等を取り入れることができれば学生の成長を促せることもできるし、地域からの信頼もあります。学生がただボランティアに行っただけではなく、そこでできることがないかを見つけていくことが学校の使命だと考えております。それができれば学科としてもカリキュラムの中に入れることができるのではないかと思います。それができればよいと考え課題に入れさせていただいております。

打田

勉強することが一番ですが、地域に出かけて何かを学ぶことは、将来社会にとっても大切なことではないかと思えます。

ボランティアにただ行くだけではなくそこで何ができるかを考えるノウハウがこれから身につける必要があると思うので時間がある時にやってほしいと考えます。

錦織

退学率について昨年度のデータだと5%となっておりますが、例えば傾向としてどの学科が多いとか学業についていけないのかメンタルで退学につながるのか毎年同じ傾向なのかというのは解析されておりますか。

落合

看護学科は人数が多いため人数的には多くなりますが各学科長から話をさせていただきます。

鎌田

看護学科はモチベーションの低下から学力に身が入らない、メンタル低下から学力に身が入らない学生が多くみられます。進路選択からもう少し考えておけばよかったという学生が結果的に退学につながっていきます。

橋村

理学療法士学科です。私が去年から入職したため傾向はわかりませんが退学の要因としては1年生が多いです。リアリティーショックや勉強についていけないなどこんなはずではなかったと言って退学や進路変更につながることを聞きます。

退学理由を聞くが大義名分を言うだけで直接聞いても本当のことが見えてきません。しかし成績が悪くなるとモチベーションが下がり学力不振から進路変更につながる仮説は立てられます。1年生の時から教育を行い、モチベーションを上げていくことが対策につながると思っております。

加藤

臨床工学技士学科の傾向としては学業不振がほとんどかなと思っております。物理・生物・物理の科目が多いため高校時代にやったことがない、やり方もわからない勉強する気がしないから再試験が重なってきてモチベーション低下で退学につながるケースが多いです。対策としてグループワークを増やしたり、補講を増やしたりしていますが、自宅学習の定着できている学生が少なく、I時間机に向かっていられないことが多いです。学習習慣をつけるように話をしていますが、なかなか不十分で結果が出せず退学につながるものがほとんどです。

阿守

医療総合学科ですが他学科と異なり国家試験がない学科となります。中身が違っており開設してから5年たちま

す。その中で3名退学者が出ております。1名は精神疾患を患い入学前から学校に来れずそのまま退学になったことと1名は運動系を学ぶコースでしたが腰のヘルニアを患い退学になったケースと1名は体調面で退学したことを考えると1年生の時に退学傾向が多くみられます。

通信制高校の学生が多く、小中高校で不登校をしていた学生がおります。2年間は頑張れますが現場に出てから苦戦をしており、特にコミュニケーションが不足して社会になじめない学生もおります。

## 錦織

どの学科も解析しており素晴らしいなと感じます。メンタルに関しては難しいなと思いますが学力が、成績が理由だと改善は取れると思うのですが、メンタルとなると人によって違うので対策が難しいと感じます。皆さんも何か意見があれば提案をしてほしいと思います。

他にいかがでしょうか。

## 景山

退学率について意見を言わせていただきます。各学科長が言われた通り1年生の対応が必要だと思います。メンタル面の不良が多く改善が必要だと思います。しかし精神の問題解決は難しく、学校としては経営もあります退学理由がメンタルだった場合、仕方がない面もあると思います。

自分の経験ではありますが一回精神を崩してしまうとなかなか完治に至らないことが多く引きずる人もいます。

1年生の時の対応がやはり重要となってくるので検討して対応していくことがよいと思います。

## 石田

精神的な問題以外にも結構退学につながるんだなと感じました。学業についていけないとか対策が難しいですし、今以上に対策を講じることも難しいと思います。

その学生に学業的なサポートやもっとこうしていこうなどという具体的な案があれば伺いたいです。

## 内井

学園として入学前教育として広報としては職業理解をしていきますが入試をしていくうえで学力も必要となってきます。入学前に基礎学力を上げる環境や仲間づくりをしてもらいたいと思っております。高校での基礎的な内容の課題を取り組んでもらい、まとめて試験を行い、結果を見て補講などで対策をしております。

入学前からの環境を考えると入試の時期も検討しないといけないと考えております。AO入試では6、7、8月で入学が決まり早い段階で対策をしていくことができますが、10月11月の入試の時期だと準備する期間が短く他に何かできることがあるのではないかとということも検討しなければなりません。10月11月から本格的に入試が始まるので入学生を迎えるにあたり学力向上や仲間づくりの環境整備に取り組んでいきたいです。

## 落合

入学前からそうですが、入学してからも学科毎に1年次からいろいろな取り組みをしております。

学習能力チェックプログラムがあり語彙読解力、計算力などをチェックするようなシステムがあり、点数が低い学生たちに課題を出したり補講をしたりということを取り組んでおります。しかしすぐに成果が出ずどの学科も苦勞しております。

毎年違う課題があるため去年うまくいっても同じやり方では今年通用しないなど毎年対策を立てながら対応しております。これをやったらうまくいくと言うのがないのが現状です。

## 石田

スクールカウンセリングの有効活用が大事だと書かれておりますが現状でどのくらいスクールカウンセリングが使われておりますか。

## 落合

年間でどのくらい使っているかというデータが今手元にありませんが多い時であれば月2、3人程度です。何

十人も一度にできないですが連休明けがやはり利用する学生は多いです。秋口や夏休み明けなどが多い傾向です。

長期で休んでいた次の月くらいがメンタル不良で休む学生が多いです。その時にスクールカウンセラーを入れております。

学生に周知しておりますが、なかなか活用できておりません。活用できるような体制を整えていきたいです。

学生がカウンセリングに行くことが嫌だと思っており情報が先生方に漏れるのではないかなどを思う学生もいるみたいです。環境整備をして守秘義務があり情報漏洩がないなどを伝えていこうと思います。そこまで利用者は多くないですが年間20人くらいですかね。カウンセリングを活用できたらよいと考えています。

石田

スクールカウンセラーがあるなら利用していけばよいと感じたことと、先生方では密な関係になりすぎていて第3者がいれば話しやすく相談に乗ってもらえるのも一つ手かなと思います。

打田

昔中学校に努めておりましたが、中学校では本人がなかなか行くことが難しいので気になる生徒がいたら教員がまず相談をしてもらうとかカウンセラーの人に授業を見ってもらうなどや本人の保護者とカウンセリングをしてもらうなどをしておりました。本人に行ってもらいたいのですがなかなか結び付かないことも多く、せっかくカウンセラーの方に来てもらっているので有効活用が必要だと思っています。

落合

学生にも声掛けはしております。スクールカウンセラーから対象の学生に対して普段どのような生活をしているかを聞かれることもあります。

打田

カウンセラーがどのような学生か、普段はどのように接しているかなどを見ってもらうために中学校であれば授業に入ってもらうなどをしております。せっかくカウンセラーに来てもらっているけど何もなかったということは寂しいため、もしカウンセラーの方に時間があれば授業を見ってもらうなどしてもらってもよいと思いました。

橘

学生募集や退学でも子供の数が減ってきているところで対策をするのが難しいかなと考えます。

学校自体でも職業の専門性を話していると思いますが、親世代はどんな仕事なのかがわからに事があります。自分の息子は臨床工学技士ですが臨床工学技士って何、どんな仕事をしているのか分かりませんでした。学校に行って体験したものや自分で聞いていたものと違うこともあると思います。

早い段階で職業理解をさせて、目に見えている綺麗な所ばかりではなく苦勞することも伝えたほうがよいと思います。憧れの仕事と感じていても実際は行ってみると憧れよりもきついところがいっぱいあると思います。学校に入る前から苦勞なども発信していく必要があると思っております。学校だけではなく業界からの発信も必要ではないでしょうか。ギャップが学生にとって苦痛になることもあります。

広く取り組んでいかないといけないですが学校だけで発信は難しいのではないかと感じました。

内井

看護協会とコラボイベントや臨床工学技士のキッズセミナーなどを行っております。限られている時間でなかなか高校生が自分の将来を考え決めるのは難しいです。早い段階で知ってもらうために中学生から学校に来て職場体験をしてもらい、本当ならもっとできることがあるのではないかと考えております。医療と言えどもどうしても看護というイメージが強いですがもっとほかにもあるよという選択肢を見せてあげることが我々の使命だと考えております。

高校生の背中を押してあげられればよいですし、どうしてもよいところを見せていくことが中心となってきます。しかし必ず体験をしてもらい1人1人話を聞いていくことでしっかりとその人にあった職業選択に導いていくことが大切だと考えております。

橘

次男は看護師を目指していましたが、出雲医療看護専門学校に来て、臨床工学技士を知り入学させてもらいました。入学する前に仕事が見えるということは本当に大事なんだなと感じております。高校3年生で人生を仕事と付き合っていくことは実感がわからないかもしれないけど、意識を付けさせることは大切であると感じました。

田中  
看護協会として高校や中学校に就職ガイダンスや説明会に行っておりますが、高校からの手上げも少なく、希望に応じて行っているだけで高校、中学校の協力も必要だと思います。先日看護の集いで看護のエピソードを募集しましたところ、高校生中学生から意見をもらいました。

お母さんが看護師だからとか、おばあさんが入院をしてお見舞いに行ったときに看護師にやさしくされ、あこがれたなど、若年の時代から環境を目にすることは職業理解にも影響があるのだと考えております。

海外研修で国際交流をすることですが、出雲は外国人を受けいれている施設が多いです。外国人は文化が違ってくるため海外に行くとかではなく他国の方と文化交流をすることも大事だと考えます。外国から来られている方はコミュニケーションが上手ですが、文化の違いがあり、食事のとり方などでも違うため、受け入れる方も苦労しているという話を聞いております。身近で対応ができるものであると感じました。

錦織  
現在技士会として主だった活動をしていませんが、10年前くらいに高校へ臨床工学の説明をしますという文章をなげても全く返事がないなどがありました。

高校から松江赤十字病院へ仕事の説明をしてほしいなどの依頼もありました。私も出身の中学校から職業講話をしてほしいなど依頼を受けたことがあります。

説明したのが中学校1年生でしたが手術に立ち会う映像などを流しました。過激な映像のため見たくない人は伏せていてくれと伝えておりましたが医療系に興味を持っている人は興味がありしっかりと見ておりました。中学校から医療系に興味をもっているいろんな進む道を選んでもらうこと、早い段階で手を打っていくことが必要であると考えております。

今後の課題として学校と連携して情報発信ができればよいと思っております。  
学生寮の所で現在3つのアパートと1つのシェアハウスがあり入居が満員の状態ですが追加の契約とかは考えておりますか。

内井  
新棟を作ることは費用がかなり掛かるため難しいですが、可能であればもともとの物件を出雲の学生専用になればよいと思っております。

錦織  
アパートの家賃補助などは行っていますか。  
内井

今はそこまで行っておりません。  
錦織

私は県外に出ている子どもがいますがどこもアパート代が問題になっていると思います。保護者としてはそこで5000円で補助しますなどがあれば県外から来る学生にとって入学しやすくなるのではないかと考えます。

ほかいかがでしょうか。  
それでは皆様の協力もありすべての評価項目が終了しました。  
最後に神田副学校長より挨拶をお願いします。

神田  
本日はありがとうございました。

話を聞かせてもらって本校の課題の見える化ができていると思っていましたが、皆様の意見をきいてブラッシュアップをしてさらに課題が明確になってきたと思いました。

この時代は不安定ですし、不確実ではありますがそこを乗り切るためにはコミュニケーションスキルが大事だとか、根拠が必要だとかを文科省も行っております。

本校も学生がその人らしく 100 年時代を生き抜くためには職業だけではなくメンタルの管理をどのように対応していくかが重要となっており皆様の意見を聞いてさらに深く感じることができました。

出生率が 10 年早く少なかったという報道もありましたが、子どもが産まれないことはかなり問題だと思います。医療従事者も 18 歳人口が減っていることが問題ですので、行政や国を上げて職業理解の事や現場の人がプライドを持って物を使って発信していくことが大事です。専門学校ですので教員は専門職を経験してきております。高校の人達と交わり魅力を伝えていくことが大切だと考えております。本校の環境も把握させてもらいブラッシュアップをしていかないといけないと思います。

本校も学園祭など催し物をしておりますので企業や地域の皆様に声をかけていくことで学生獲得にもなると思います。

コミュニケーションスキルは小中高と課題になってきておりますが単体で動くことは難しいです。各団体や各学校、地域として対策を行っていないといけません。地域との交流が人間形成に関わっていくこともあります。さらに本校が地域に根差していく学校を目指していくために引き続きご協力を頂ければと思います。

本日はありがとうございました。

錦織

これを持ちまして令和 7 年度学校関係者評価委員会を終了いたします。